

ふるさと納税を活用した釜石市との連携事業

<釜石市との連携経緯>

平成13年 岩手大学と釜石市との相互友好協力協定を締結。技術開発や生涯学習などの産学官連携を推進
平成23年 東日本大震災の発生を契機に岩手大学釜石サテライトを設置
平成25年 釜石サテライト内に、岩手大学三陸水産研究センターを設置
平成28年 農学部食糧生産環境学科に水産システム学コースを設置
平成29年 大学院総合科学研究科地域創生専攻水産業革新プログラムを新設
⇒「釜石サテライト」から「釜石キャンパス」へ
平成30年 釜石キャンパス内に国・岩手県・釜石市・岩手大学の連携により、総合教育研究棟（水産系）開設

<事業概要>

- 令和2年度に釜石市の「釜石ふるさと寄付金」のメニューの中に岩手大学と釜石市との連携事業に関する寄付項目を設定
- 寄付金は、釜石キャンパスと釜石市との連携で実施する研究開発・産業育成・人材育成に係る事業・取組に活用（釜石市の当初予算で計上している岩手大学との連携事業に当該寄付金を充当）

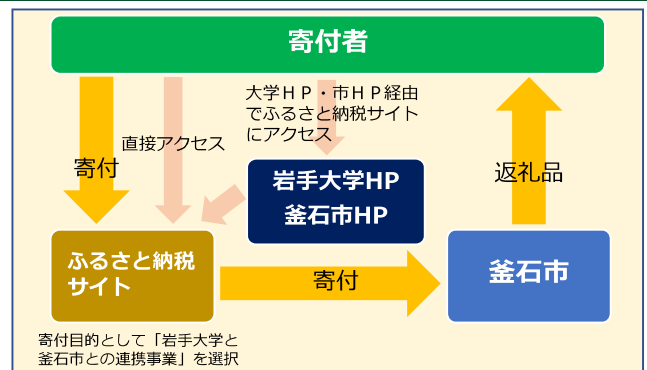
<活用事業例>

1. サクラマスの海面養殖に関する共同研究の推進

- 令和4年度に「釜石はまゆりサクラマス」として商品化
- 5年後に1000トンの水揚げを目指す
- ⇒釜石はまゆりサクラマスをふるさと納税返礼品として商品化

2. 学生が取り組む釜石市内での地域貢献活動への支援

- 市内での移動水族館、タッチプールイベントの開催
- 「釜石さかなと海の検定」の実施
- 定置網漁業体験活動と、獲れたての魚の寿司を味わう会の開催
- 市内漁協女性部メンバーに学ぶ、地元魚を使った料理ワークショップ
- ⇒成果品をレシピ集や動画としてまとめるとともに、上田キャンパスの学食でのメニュー提供を目指した活動を展開中



<寄付実績>

年度	寄付件数・金額(※)
R3年度 (R3.4.1~R4.3.31)	458件・7,329千円
R4年度 (R4.4.1~R5.3.31)	357件・5,819千円

※ 寄付金額は寄付があった総額。事業への充当額は、寄付金から返礼品・手数料等（総額の約50%）を差し引いた額



いわて高等教育地域連携プラットフォームの設置(令和3年6月9日)

(1) 設置趣旨

いわて県民計画（2019～2028）に掲げる「高等教育機関と連携した地域づくり・人づくり」を進める観点から、「**地域に貢献する優れた人材の育成・地域への還元**」と「**高等教育機関がもつ専門性や特色がより一層地域社会で生かされる地域づくり**」を軸に産学官連携による議論・取組を行っていくことを目的として設置（参画団体：21団体）

(2) プラットフォームの事業展開

① 参画団体の取組の展開

- エビデンスに基づき、**地域課題の共有**を図りながら、組織の設置目的の達成に向けて方向性を議論する場として取組を進めていく。
- 各参画団体は、プラットフォームで得た情報やデータベースを活用して取組を展開。この際、各団体の特徴を活かし、取組の方向性に賛同する参画主体同士が連携して、**効果的な取組を展開**（必要に応じて、プラットフォームの枠組みを活用）していく。

② 既存組織との連携

いわて未来づくり機構やいわて高等教育コンソーシアム、いわてで働く推進協議会など、既存の組織において議論・実践されているものは、当該組織との連携により推進

【参考】既存組織の目的

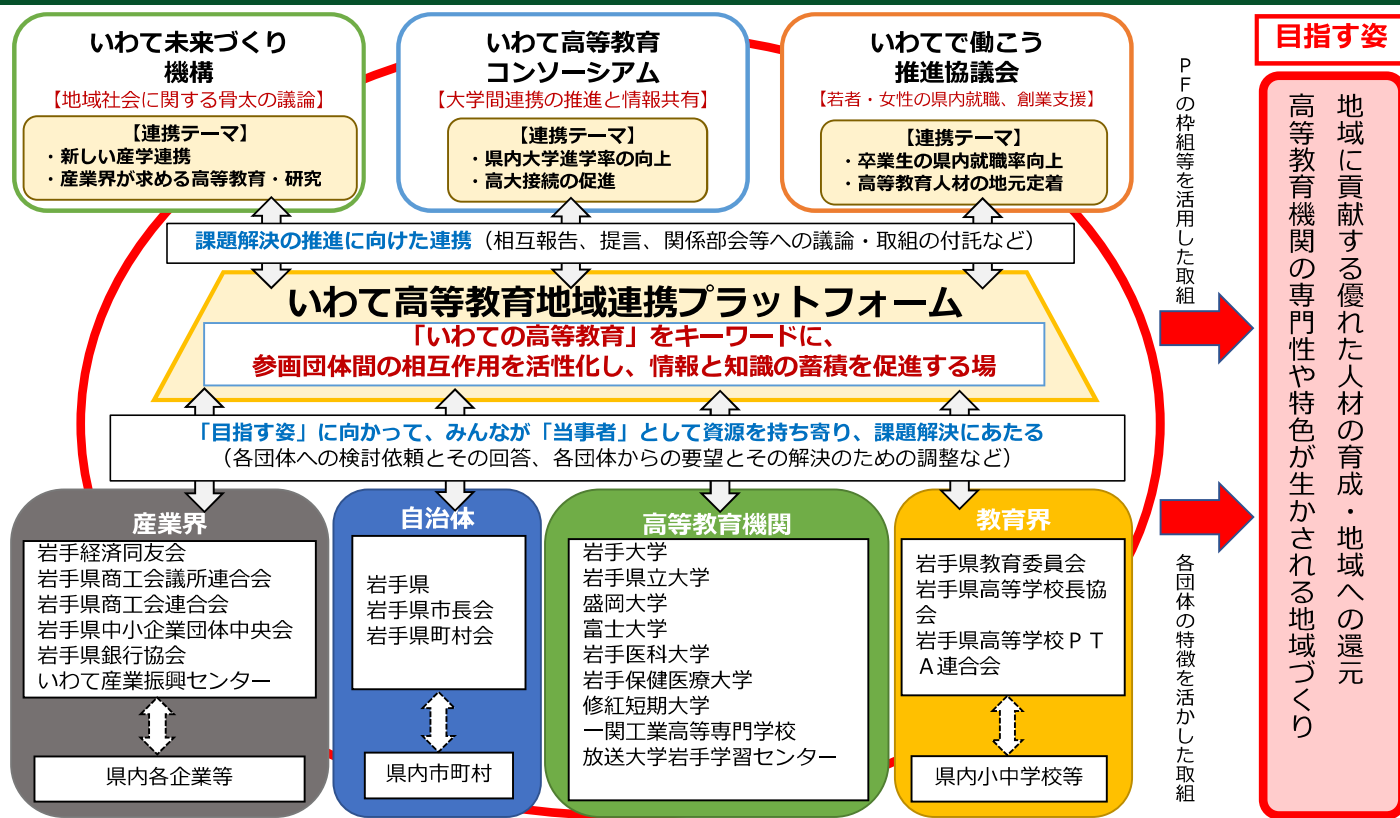
- いわて未来づくり機構とは、地域社会に関する骨太の議論の場
- いわて高等教育コンソーシアムとは、大学間連携の推進と情報共有の場
- いわてで働く推進協議会とは、若者・女性の県内就職、創業支援の場

③ 今年度の取組

- 4つのワーキンググループによる議論（**産学官連携創造WG**、**県内定着促進WG**、**人材育成推進WG**、**リカレント教育推進WG**）
- 県内大学等卒業者の県内就職率の向上を目的とした、県内就職に対する県内学生へのアンケート調査や、高等教育機関別のアンケート調査により、県内就職に対する学生の考え方や就職先に求める要素などを分析
- 県内企業と高等教育機関等の情報交換会を開催し、企業と高等教育機関のマッチングを創出
- 高等学校及び高等教育機関において、それぞれ取り組んでいる地域等をテーマとした教育プログラムに関する取組事例の報告を通じた、高校や大学等における連携の手がかりや地域を活用した教育の可能性を探る意見交換を実施
- 県内企業のリカレント教育に関するニーズ調査を実施
- オリジナルテストプログラム「岩手で働きながら共に学ぶ 業務革新のためのDX講座」を開催



いわて高等教育地域連携プラットフォーム概念図



令和7年4月 学部改組・新設のお知らせ

- 岩手大学は、卒業生である宮沢賢治の想い「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」（Well-being）を受け継ぎ、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現のため、**予測不能なVUCA時代を切り拓き、力強く生きる力を持ったレジリエントな人材の育成**を目指しています。
- 岩手大学がいまするべきことは、これまでの教育・研究・社会貢献活動の経験を踏まえ、将来の岩手、我が国の発展に寄与することを見据えた「**震災復興から地域創生へのフェーズの移行**」「**今後迫りくる新たな社会課題や危機**」「**人工知能やビッグデータに代表される第4次産業革命の進展による社会構造・産業構造の変化を見据えた新たな社会的・地域的ニーズ**」への積極的対応です。
- そのため、令和7年4月に、理工学部、農学部の新設を計画しています。

令和7年4月

理工学部 農学部 獣医学部

学部改組・新設のお知らせ

国立大学法人
岩手大学
IWATE UNIVERSITY

令和7年度改組のトピックス

理工学部 Faculty of Science and Engineering

専門性とデータサイエンス応用力を併せ持つ人材育成

- 3学科8コースから1学科8コースへ再編
2年次コース選択の柔軟化
- デジタルメディア、UX/UIデザイン分野で活躍する人材育成を目指す「クリエイティブ情報コース」を新設
- データサイエンス応用力を養成するデータサイエンス応用副プログラムの導入
- 幅広い学びが可能となる初年次教育プログラムを導入



農学部 Faculty of Agriculture

「食料」「生命」「環境」をキーワードに、実践的かつ総合的な学びを提供

- 「食料」「生命」「環境」をキーワードとした学科・コースの再編
- 農学全体を俯瞰できる「農学の総合知」を養う実践的教育の実施
- ライフサイエンス分野の強化・充実



獣医学部 Faculty of Veterinary Medicine

国際通用性のある獣医学教育の実現

- 産業動物分野、公衆衛生・家畜衛生分野の充実
- 地域と連携した伴侶動物臨床分野の充実
- 国際標準を目指した学部カリキュラムの改善
- 学部での研究者養成プログラムの導入



現行[~令和7年3月]

人文社会科学部	200名
教育学部	160名
理工学部	440名
農学部	400名
獣医学部	230名

新体制[~令和7年4月~]

人文社会科学部	200名
教育学部	160名
理工学部	414名
農学部	500名
獣医学部	302名



国立大学法人
岩手大学
IWATE UNIVERSITY

ご清聴ありがとうございました

令和7年度改組の情報は岩手大学ホームページからご確認いただけます。

<https://www.iwate-u.ac.jp/info/news/2023/11/005965.html>



国立大学法人
岩手大学
IWATE UNIVERSITY